

# 工場の消火設備

石油の知りなれ

爆発の注意

ポンプを傍りに置いて、自動的にデイゼルエンジンが動き出すやうになつてゐるのではありません。その地下室のなかにはこれは別の目的のために五十キロワットの電機があり、平生でも明りを出さないのでありますが、空襲の被害がひどい時、数日間電氣が来ないでも復舊工事に支障を起させないやう考慮されてゐるものであります。その他貯水池が設けてある。工場では、うちうち利用してゐるのでありますが、大きさは千九百メートルの周囲に四個のポンプが備へ付けてあります。これはやはりコンクリートで屋根を蔽ひ、直撃弾では參るかも知れませんが、爆風とか弾片は避けられるやう嚴重にペトンで圍つてあります。その他に小さい貯水池——大體廿五メートルの深さの水の入る貯水池を各工場の附近に配置し砂と一緒に用意しておく。もちろんバケツも多數用意してある。砂も雨にあつて濡れないやうに屋根がしてある。これはエレクトロンなどに濡れた砂を使ふと火が飛び散るから、濡れた砂を使はぬやうに屋根がしてあるのであります。それから自動車ポンプを二臺もつてゐる。しかし自動車ポンプは昨年の大空襲の時には役に立たなかつた。これはどういふわけかといふと、御承知の通り直撃弾が中りましてその建物の破片があたりに飛散し、それが一面に散らばつたために自動車ポンプの通る道を塞いでしまつた。散開した工場でない限り自動

車ポンプが使へないといふことになり。それで自動車ポンプは餘程氣をつければ當てにならぬといふことになつたのであります。

かういふ現象はベルリン市内でも屢々起つたことでありまして、肝腎の爆弾の落ちた場所に自動車ポンプが近寄れなかつたといふことが屢々あるのであります。これに對して手押しの手携用ポンプ——これがこの工場に二百臺あり、この手押しポンプが非常に役に立つたのであります。四千發の大小焼夷弾が落ちて八十ヶ所から火の手が揚がつたのでありますが、その八十ヶ所を殆ど完全に消し止めてくれたのはこの手押しポンプであります。容易に火元に近づける。自由自在に持ち運びが出来たためであります。

## 防げば必ず防ぎ得る

いま日本でやつてゐるバケツ注水、一列になつて注水するのですが、もちろん小規模のものに對しては十分役に立つと思ひますが、最近ヨーロッパで盛んに用ひられてゐる黄燐燒夷弾に對してはバケツ操作の注水ぐらゐでは効果は期待出来ないのではないかと思はれます。黄燐燒夷弾といふのは從來最低十